



創世会
額岡 慎悟

地区まちづくり協議会の
将来形は

Q 現在、地区における大きな課題の一つに乱立する組織の存在がある。市が目指すべき地区組織の将来形を明確に示し、全地区が将来形に向けて臨むことができよう支援する考えがないか伺う。

A 地区まちづくり協議会は発足から3年が経過し、一部の組織においては、組織改編が行われています。今後は、そのような動きも踏まえ、地区自治組織に対し、その自主性及び自立性を尊重しつつ、適切な支援を行うことを基本に、市議会、地域、行政であるべき姿を共有できるように努めていきます。

東京女子医科大学との連携
強化を

Q 来年度4月より看護学部が新宿河田町キャンパスに移ることが決まった。地域医療推進のため、ふくしあひの分室や地区組織を掛川キャンパスに設置することで東京女子医科大学との連携強化を図る考えはないか伺う。

A 空きスペースの活用については、市民向けの講座をはじめ、近隣の医療スタッフの資質向上や、保健、医療、福祉に関わる団体・組織等の活用を中心として、検討がされています。掛川市としても、東京女子医科大学の高度教育機関としての特性と連携が可能な、様々な活用方法の検討を行っています。



来年度から「掛川キャンパス」に名称変更

高齢者の免許返納を後押し
できる公共交通網の整備は

Q 自家用車にかわるドア・ツー・ドアの公共交通はデマンド型乗合タクシーの普及など、まち協の範囲を超えた地域協働エリアの計画を全市的・長期的に見通して、市が責任をもって立てるべきではないか。

A 公共交通の問題についても、市が責任をもって取り組んでいかなければならないと考えています。掛川市には、自主運行バスや生活支援車、デマンド型乗合タクシーなど多様な運行手段があるので、既存の公共交通網を連携させて、地域公共交通全体の中で、利便性向上に向けた努力をしていきます。



日本共産党
勝川 志保子

平和学習資料を生かした
今後の取り組みは

Q この春刊行の「掛川市平和と私たちの未来」は、戦争の負の遺産を後世に伝え、平和への誓いを語り継ぐ貴重な資料である。資料を生かした今後の市としての平和への取り組みは。



平和資料



地下軍需工場跡

A この資料を活用することで、現在行われている学習が深まり、児童生徒の平和への願いをより強めることができると考えます。多くの方に読んでいただけるよう市内の公共施設等に配架するとともに、市のホームページや広報などで概要をお知らせし、平和の尊さを伝えていきたいと考えています。

【その他の質問事項】

- ・学校給食の食物アレルギーへの対応の進展をはかる施策について
- ・地域循環型経済を構築する中小企業支援のあり方について